

【参考資料】

復興・被災者支援に関する領域の評価ツールセット
(高齢者生活支援分野)

平成 31 年 3 月

【参考資料】

1. ロジックモデル

本評価ツールが対象とする「高齢者生活支援」分野の事業は、被災者における高齢者の健康維持や生活の質の維持・向上のために、仮設住宅を中心とした体操教室を行ったり、自力で外出する手段を持たず生活上困難を抱える被災住民（移動困難者）が復興に取り残されることのないよう、送迎支援、相談や手伝い、イベント等を行ったりする取組が含まれます。

これらの取組により、高齢者生活支援では、対象となる地域住民（高齢者等）の意欲や積極性を向上させ、地域内のつながりを促し、孤立感や不安感を減少させるとともに、身心機能の維持向上などをもたらすことを目指しています。そこで、図 1 のロジックモデルの一例では、高齢者生活支援の最終目標を「高齢者の QOL 向上」「地域経済の活性化」「介護費・医療費の削減」「家族の就労の増加」と設定しています。

ロジックモデル案

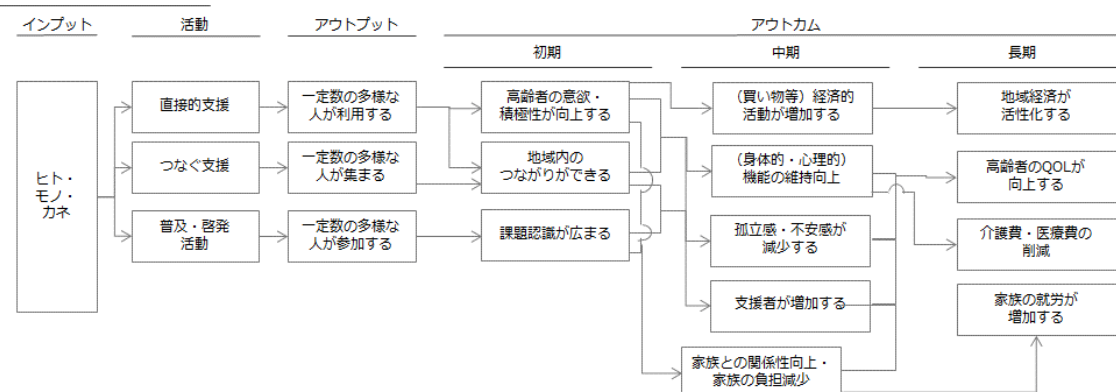


図 1：高齢者生活支援分野のロジックモデルの一例

ロジックの内容としては、まず活動のアウトプットの成果として初期アウトカムが現れますが、ここでは「高齢者の意欲・積極性が向上する」「地域内のつながりができる」「課題認識が広まる」の3つを抽出しています。

次に、初期アウトカムが生じた結果（多くの場合、それが繰り返して生じた結果）として中期アウトカムが現れますが、ここでは「(買い物等) 経済的活動が増加する」「(身体的・心理的) 機能の維持向上」「孤立感・不安感が減少する」「支援者が増加する」「家族との関係性向上・家族の負担減少」を設定しています。

さらに、事業の最終目標となる長期アウトカムは、初期・中期アウトカムの延長線上に位置し、「地域経済が活性化する」「高齢者の QOL が向上する」「介護費・医療費の削減」「家族の就労が増加する」と設定しています。

【参考資料】

2. 成果指標（評価指標）

1. のロジックモデルに基づき、表 1 のような成果指標の導入が考えられます。

表 1：高齢者生活支援分野の成果指標（評価指標）の一例

種類	評価項目	指標
初期	高齢者の意欲・積極性向上	高齢者の意欲・積極性
	地域内のつながり	地域内の知り合いの数・交流数
	課題認識の広まり	高齢者の生活に関する課題を認識する人の数・割合
中期	(買い物等) 経済的活動の増加	買い物などの経済的活動による出費の増加額・増加割合
	(身体的・心理的) 機能の維持向上	身体的・心理的機能測定指標
	孤立感・不安感の減少	孤立感・不安感を感じる人の数・割合
	支援者の増加	高齢者支援に携わる人の数
	家族との関係性向上・負担減少	家族とのコミュニケーション頻度・介護にかける時間・工数
長期	高齢者の QOL 向上	QOL に関する測定指標
	介護費・医療費の削減	介護費・医療費
	家族の就労による税収増	家族の就労・税収入

注) 長期アウトカム指標「地域経済の活性化」に関しては、地域活性化指標や地域経済分析 (RESAS) などの活用がこれまで提案されていますが、確たる指標が設定できていない状況のため記載していません。

注) 長期アウトカムの評価項目「高齢者の QOL 向上」において、自立度に関する事項は QOL 評価におけるプロフィール型尺度等を含むものとして想定しています。

【参考資料】

3. 測定方法

これらの成果指標に対して、表 2 に示すような測定方法が考えられます。

表 2：高齢者生活支援分野の測定方法の一例

種類	評価項目	測定方法
初期	高齢者の意欲・積極性向上	アンケート調査
	地域内のつながり	アンケート調査
	課題認識の広まり	アンケート調査
中期	(買い物等) 経済的活動の増加	アンケート調査
	(身体的・心理的) 機能の維持向上	身体的・心理的機能測定、アンケート調査
	孤立感・不安感の減少	アンケート調査
	支援者の増加	アンケート調査・二次情報調査
	家族との関係性向上・負担減少	アンケート調査・二次情報調査
長期	高齢者の QOL 向上	アンケート調査・QOL に関する指標
	介護費・医療費の削減	介護費・医療費
	家族の就労による税収増	アンケート調査・二次情報調査

注) 長期アウトカム指標「地域経済の活性化」に関しては、地域活性化指標や地域経済分析 (RESAS) などの活用がこれまで提案されていますが、確たる指標が設定できていない状況のため記載していません。

注) 長期アウトカムの評価項目「高齢者の QOL 向上」において、自立度に関する事項は QOL 評価におけるプロフィール型尺度等に含むものとして想定しています。

参考までに、表 2 に示した評価項目を測定するアンケート調査の例¹を以下に挙げます。

ア) 高齢者の意欲・積極性向上に関するアンケート

⑤これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった。		
1. 改善した	2. どちらかといえば改善した	3. 変わらなかった
4. どちらかといえば悪化した	5. 悪化した	
※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。		
<input type="text"/>		

¹ 平成 28 年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート (取組に対する受益者の満足度等アンケート) を主な参考としている。

【参考資料】

イ) 地域内のつながりに関するアンケート

本イベントへの参加により、地域内の知り合いはどれくらい増えましたか？

- ①5名未満 ②5～9名 ③10～15名 ④16～24名 ⑤25名以上

ウ) 課題認識の広まりに関するアンケート

高齢者の生活に関する課題について、どれくらい理解できましたか？

1. 大変理解できた 2. ある程度理解できた 3. どちらとも言えない
4. あまり理解できなかった 5. 全く理解できなかった

エ) (買い物等) 経済的活動の増加に関するアンケート

以前と比べて、買い物などの経済的活動が増えましたか？

1. とても増えた 2. ある程度増えた 3. どちらとも言えない 4. 少し減った
5. とても減った

オ) (身体的・心理的) 機能の維持向上に関するアンケート

②心身の健康改善につながった。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した 3. 変わらなかった
4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

カ) 孤立感・不安感の減少に関するアンケート²

①孤立感や不安感が軽減された。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した 3. 変わらなかった
4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

キ) 支援者の増加

地域の高齢者を支える生活支援を担う人材（支援者）が増えてきたと思いますか？

1. 大変そう思う 2. ある程度そう思う 3. どちらとも言えない 4. あまり思わない
5. 全く思わない

² 平成28年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート（取組に対する受益者の満足度等アンケート）

【参考資料】

ク) 家族との関係性向上・負担減少に関するアンケート

③家族の負担軽減につながった。		
1. 改善した	2. どちらかといえば改善した	3. 変わらなかった
4. どちらかといえば悪化した	5. 悪化した	
※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。		
<input type="text"/>		

ケ) 高齢者の QOL 向上に関するアンケート

地域に住む高齢者の QOL は以前と比べて向上していると思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

(参考2) QOL の評価

QOL 評価においては、QOL が複数の要素から構成される「多次元」的概念であることと、「主観」を評価・測定することに意義がある。QOL 評価尺度は目的別に主に 2 種類ある。一つは健康状態を詳しく調べる「プロフィール型尺度」で、もう一つは、医療経済評価で使われる「価値付け型尺度」である。プロフィール型尺度で測定した結果は臨床現場へ、価値付け型尺度で測定した結果は社会における医療資源配分の指標として役立つ³。

高齢者における QOL の指標としては、主観的健康感や生活満足度、生きがい感、人間関係に対する満足度、生活能力などがある。

コ) 家族の就労による税収増

家族の就労状況に伴い、収入および支出が増えてきましたか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

³ 下妻晃二郎：QOL 評価研究の歴史と展望、行動医学研究 Vol.21, No. 1, 4-7, 2015